

## 読売新聞 きょう（7月29日）のイチ押し

### 1面・社会面 5人以上の宴会自粛を要請 大阪府がコロナ対策強化

大阪府が新型コロナウイルス対策本部会議を開き、「5人以上の宴会・飲み会の自粛」を府民に要請するなど、新たな感染対策を打ち出しました。経済界には「テレワークの実施率70%」を目指すよう求めます。

- ★ 府内では7月中旬から感染者の増加ペースが上がっており、28日は1日当たりの感染者数が155人と、過去最多を更新しました。このまま感染拡大が続くと、病床の確保が難しくなる恐れもあります。
- ★ 大阪府は「20～30歳代が夜の繁華街で騒ぎながら飲食することで感染し、そこから他の年代にも広がっている」と分析。数字による明確な基準を示すことで、感染防止の促進につなげたいと考えています。

### 社会面 ALS囑託殺人 女性の父「営利目的だ」

難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）の女性患者への囑託殺人容疑で医師2人が逮捕された事件。女性の父親が報道陣の取材に応じ、娘への思いなどを語りました。医師側に女性から130万円が振り込まれていたことにも触れ、「営利（目的）じゃないか」と怒りを口にしました。

- ★ 女性が望んでいたとされる「安楽死」については、「聞いていれば、思いとどまるように言った。理解しがたい」と振り返りました。
- ★ 女性は、高齢の父親の負担を考え、公的支援を利用してひとり暮らしをしていました。訪問看護師ら数十人による在宅ケアを受け、自宅に招かれた音楽家らの演奏会を楽しむこともあったそうです。

#### 他紙と比べて

新型コロナウイルスの感染の有無を調べるPCR検査が受けられない——。感染拡大第1波の時期には、全国各地で悲痛な声が聞かれました。どうしてそのような事態が起きてしまったのか。1面・第2社会面・特集面で展開した連載「検証コロナ 次への備え」では、要因を探るとともに、今後に生かすべき教訓も挙げています。